

2016年10月 定例自然観察会報告書

六甲山自然案内人の会 4班 山田雄二

1. 概要

- ①実施日時 2016年10月8日(土) 午前9時30分～15時30分 曇り
- ②テーマ 裏六甲の秋を楽しむ
- ③コース 神鉄有馬口駅前集合→下唐櫃山王神社(受付)→逢山峡→猪鼻橋→記念碑台(解散)
- ④ポイント 黄色や赤に色づきかけた木々や草花そして秋の実などを楽しみながら逢山峡を経て表六甲と唐櫃を結ぶ石仏の見守る古道(シュラインロード)を歩く。
- ⑤参加者 ビジター16名+会員35名=51名 会員のうち4班は16名
参考:10月1日の自主研修会 参加会員33名
- ⑥配布資料 ●A5サイズ8ページ冊子(コース概念図、下唐櫃山王神社樹木配置図、植物リスト、シュラインロード謂れ、紅葉、黄葉のしくみ)
●シュラインロードと野仏たち(カラーパンフ)
- ⑦班リーダー ビジター1班 竹上、ビジター2班 坪田(チ)、ビジター3班 山田
会員班は松本代表、武川氏にお願いした。
(ビジター班は悪天候予想のため少なく3班のみとした。)



下唐櫃山王神社での
スタート挨拶

2. 観察記録

- 9:00過ぎから神鉄有馬口駅前ではビジターを待ちあまる程度まとまった段階で山王神社まで誘導する。
- 山王神社にて挨拶(山田)続いて注意事項の説明、班分けを行う。
- 山王神社の鎮守の森としての特徴の話。近くでの木々の説明を行う。
- 高速道路高架下ではマント群落の状況を確認。クズ、アオツヅラフジ、ノブドウなどのつる植物を観察。特にネナシカズラ、アメリカネナシカズラの特殊な生態を観察する。



つる植物の観察

「主な観察植物」アオツヅラフジ、エビヅル、サルトリイバラ、ノブドウ、ネナシカズラ、クズ、ヒキオコシ、ヌルデ、クサギ、セイタカアワダチソウ、カナムグラ、ウツギ

- 高速道路高架下から昼食の河原地点まで逢山峡を奥山川沿いに歩く。ここではコバノガマズミの赤い実やノブドウの大きく色づいた実を観察。また日本ミツバチの営巣、オオウラジロノキの実を観察

「主な観察植物」クマイチゴ、コアジサイ、コガクウツギ、アマギコアジサイ、タカノツメ、ウラジロノキ、キブシ、コウヤボウキ、ウリカエデ、クロモジ、ジャケツイバラ、コシアブラ、シラキ、リョウブ、フサフジウツギ、アシボソ、イタドリ、キクバヤマボクチ、ガンクビソウ、コヤブタバコ、ツルニンジン

- 12時に予定地河原に着き昼食休憩を30分とる。(猪鼻小橋と猪鼻橋の中間点)

この間にクズの茎の道管実験を行う。(クズの茎を適当な大きさに切り透明なコップに水を汲み、息を吹き込むと泡がでる。またシャボン液につけて吹くと細かな泡がたくさんできる。つる性の植物は道管が発達し遠くまで水を運ぶ必要がある。ルーペで見ると大き目の道管が確認できる。)

- 5班(次班)の定例自然観察会(11月)のチラシを配る。
- 各班30分休憩後出発する。



センブリ等の観察

- 猪鼻橋までいく途中ではセンブリのつぼみを観察、残念ながらまだ咲いていなかった。またシコクママコナの花やアオハダを観察する。

「主な観察植物」センブリ、シコクママコナ、イタドリ、ヒヨドリバナ、アオミズ、アオハダ、ヤブタバコ、オオバヤシャブシ、タラノキなど

- 猪鼻橋で有馬口駅に引き返すグループとシュラインロードを登るグループとに分かれる。



アサギマダラ

●途中行者堂ではシュラインロードの謂れを説明（永田）



シュラインロードの
謂れの説明風景

●記念碑台までの途中ではシロバナウンゼン、オオカメノキ、ツタウルシ、ヤマシグレ、サンショウ、ツリフネソウ、アワブキなどの他アサギマダラの飛翔も見られた。

最終地点記念碑台に到着後流れ解散とした。

3. 感想

●今回前日の天気予報で降水確率70%だったので完全に雨の中での観察会を予想していたところ当日の朝20%の降水確率に変わっていて結果的に雨に濡れず観察会を実施できたのが一番良かった。ただし前日の予報の影響でビジター参加者が極端に少なく16名だけだったのが残念。

●ビジターが全員シュラインロードを登り最終地点の記念碑台までたどり着いたのは喜ばしい。

●昼の休憩時に行ったクズの茎を使った実験はビジターの印象に残ったようです。

●シュラインロードの途中からガスが出てきて風も強くなるものの雨とはならなかったのは幸いでした。



ガスの中、記念碑台下ガイドハウスにて
解散風景